

第18回新五流総フォローアップ委員会 議事要旨

日 時：令和3年11月29日（月）15：00～17：00

場 所：岐阜県水産会館2階 中会議室

1. 議題

- (1) 委員会規約の改正について
- (2) 令和3年8月大雨の検証報告について
- (3) 新五流域総合的な治水対策プランの進捗報告について
 - 1) プランの進め方について
 - 2) ハード対策について（河川改修、耐震化、長寿命化、魚道点検関係）
 - 3) ソフト対策について
- (4) 地域委員会の報告について
 - 1) 長良川流域
 - 2) 揖斐川流域
 - 3) 木曾・飛騨川流域
 - 4) 土岐川流域
 - 5) 宮川・庄川流域

2. 議事の概要

(1) 委員会規約の改正について

議題（1）の内容について、事務局から説明があり、質疑等はなく了承された。
委員各位からの賛同が得られたので、委員会規約を改正し、当日付けで施行した。

(2) 令和3年8月大雨の検証報告について

議題（2）の内容について、事務局から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

【原田委員】

土地利用一体型水防災事業についてももう少し詳しく教えていただきたい。

【事務局】

白川における土地利用一体型水防災事業だが、通常の築堤、河道掘削、護岸等の整備メニューに加えて、堤防整備に合わせた宅盤の嵩上げを行うため、事業名に「土地利用一体型」を付加している。

(3) 新五流域総合的な治水対策プランの進捗報告について

議題（3）の1）～3）の内容について、事務局から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

【原田委員】

国土強靱化5か年加速化対策について、緊急3か年事業等での予算は大部分が改修ではなく、伐採や土砂掘削に投入されてしまうという側面があったので、県においては、総合治水対策プランが進むようにこの5か年事業をうまく活用していただきたい。

土砂浚渫によって、河岸構造物だけではなく、橋りょう、堰等の根入れが足らなくなり、構造物の機能を損なわないように注意を払って掘削の工事を進めていただきたい。

【高見委員】

長良川流域の“山田川排水機場”について、除塵機の健全度評価が「△2」で、令和3～4年度に更新を行うこととなっているが、健全度評価と改修との関係を説明いただきたい。

【事務局】

健全度評価「△2」は、2～3年以内に措置を行うことが望ましいため、“山田川排水機場”は令和3年度に除塵機を製作し、令和4年度に設置を行う。機器の製作等時間がかかるようなものについては、同様な考えで更新を行っていく。

【高見委員】

昨年度見直された長寿命化計画の中で、計画と実績の乖離という分析をしていたが、計画等を大きく乖離するような事例が発生しているかどうか説明していただきたい。

【事務局】

計画と実績に乖離がある具体例をこの場で直ちに示すのは困難だが、その場合は調査結果から健全度評価を行い、今後の修繕計画に反映させて実施していきたい。

(4) 地域委員会の報告について

議題(4)の1)～5)の内容について、事務局から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。各項目について交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

【杉戸委員】

泥川水門の耐震化について、耐震性能を有しているため、耐震化は不要と記載されているが、こういった構造物が被災したというデータはなかなか無いので、国や県が決めた基準さえ守っておればいいというわけではない。耐震化については、各地域の地盤の影響が大きく効いてくるため、そういうデータも活用し、一度基本的なチェックをした方がいい。

【事務局】

今後、対応していきたい。

【原田委員】

白川の水防災事業について、15年確率というのは、白川の自己流で計算されているのか。

【事務局】

15年確率は、白川の自己流で計算している。飛騨川のバックを考慮しなくても、この高さまで15年確率の出水で達するという計画になっている。

【藤田委員長】

土岐川の大正堰工区について、堰の取水部分を上流へ移し、落差の解消をしたということか。

【事務局】

そのとおりである。取水の位置を上流へ移し、堤外水路で既存の施設に繋いでいる。

【西條委員】

金草川の河川改修事業について、樹木等繁茂した状態のものを除去するという計画であるが、ぜひ早急に進めていただきたい。

河川改修をして、そこに流れを作ったのであれば、当初の機能が維持できるようにぜひとも考えていただきたい。

【原田委員】

県が今までやってきた効果を感じたことが2点ある。1点目は、危機管理型水位計を中小河川の隅々につけたおかげで、どこで浸水が発生しているかリアルタイムに把握できるようになった。

2点目は、今年の8月大雨の際、被害状況を現地で確認したが、そういう場所はほぼ例外なく浸水位表示板がついており、地元の方々も水が付くところだとよく認識していた。こうした水防災の意識が根付いており、それを支える仕組みが完成してきていると実感した。

【藤田委員長】

金草川、五六川、水門川等、国の事業とうまくタイアップして、河川の治水や環境等いろんな面で高めていっていただきたい。

また、平成27年関東・東北豪雨を受けて「水防災意識社会再構築ビジョン」が策定され、平成30年には「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、今年からは「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」と関連の施策が進められている。これらを活用し、ソフト面も含めて総合治水対策プランを推進していただきたい。